



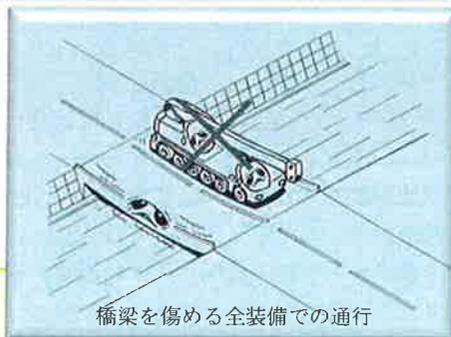
クレーンニュース

## 移動式クレーンの道路法による通行許可について

道路法では、車両で車両制限令で定める重量・寸法の最高限度を超えるものは道路を通行させてはならない、と規定しています。

### (1) ラフテレーンクレーン

つり上げ荷重20~25t以上のラフテレーンクレーンは一般的制限値を超えるため、通行経路ごとに特殊車両の通行許可の取得が必要です。ラフテレーンクレーンの場合は分解しない全装備走行姿勢で通行許可を取得できますが、付された通行条件にしたがい、通行しなければなりません。



橋梁を傷める全装備での通行

### (2) オールテレーンクレーン

オールテレーンクレーンは、全装備状態では車両総重量が約60t以上となり、道路法、道路運送車両法の規定から道路通行は認められません。上部クレーン部(旋回体、ブーム等)を取外したクレーン用台車として自走し、上部クレーン部はトレーラ等で別搬送することが必要となります。オールテレーンクレーンが全装備で通行することは違法であり、橋梁等の道路を損傷させる原因になります。特にルールの厳守が求められます。

担当 中島

自動車ニュース

## エンジンオイルの劣化による車両火災について！！

・自動車メーカーから報告のあった自動車の事故・火災情報の統計によると、装置別の火災情報件数が最も多いのは、原動機の163件で、原動機から発生する車両火災は、点検整備の未実施によるエンジンオイルの劣化が多いと考えられています。

### オイル劣化について

・最近の自動車を取り巻く状況としては、全ての車種で長期使用化が進んでいることから、トラックやマイカー等の様々なタイプの自動車において、エンジンオイルの劣化について注意が必要になっています。

・また、一般的にエンジンを短時間使用するだけでは、エンジンオイルは劣化しないとは考えられがちですが、エンジンが十分温まらない短時間の使用においてもエンジンオイルの劣化は進行します。

・最近では、ハイブリッド自動車や、アイドリングストップ機能を備えた自動車も市場に出てきており、そのようなエンジンの使用においても、エンジンオイルの劣化について注意が必要です。

・こうした背景を踏まえれば、エンジンオイルの劣化による車両火災は、トラックやマイカー等の様々なタイプの自動車や使用状況において発生する可能性があります。エンジンオイルは、一定期間又は一定の走行距離ごとに交換しましょう。

担当 藤森

## ゴムクローラの点検をしましょう！！

### (点検項目)

- ① スチールコードの切断及び損傷の有無を目視で調べる。→切断又は著しい損傷がないこと。
- ② ゴムの欠け、老化及び摩耗の有無を目視で調べる。→著しい欠け、老化又は摩耗がないこと。
- ③ 心金の脱落の有無を目視で調べる。→脱落がないこと。
- ④ 張りすぎ、緩みすぎを目視又はスケールで調べる。→メーカーの指定する基準値内であること。

### ④の検査方法

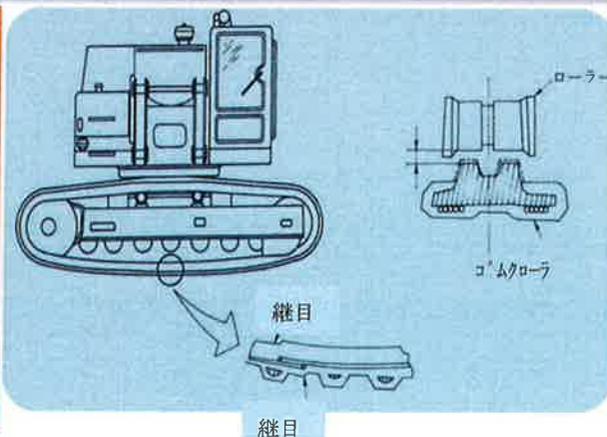
(a) 上部旋回体を側方に向け、ブームシリンダーで片側クローラフレームを持ち上げ、履帯のたわみ量をスケール等で検査する(油圧式パワーショベル)。

(b) 履帯の検査はクローラを2~3回転させ、たわみが均一になる様にしてから検査する。

(c) ゴムクローラには継目があるので、この継目が中央にくる様にして検査する。(右図)

※クローラの張りすぎはクローラが切れる原因になり、緩みすぎは外れる原因になります。

担当 若林



## 編集後記



一度は行こうと思っていた鎌倉にやっと行けました！！  
江ノ電、鎌倉大仏、鶴岡八幡宮と鎌倉観光の王道を巡ってきました。

鎌倉のことを少しでも勉強して行きました。  
暇つぶしに読んでみてください。

### 武家の古都・鎌倉

鎌倉は現在、2013年の世界文化遺産登録をめざしています。奈良、京都に並ぶ政治の中心地として、また日本初の武家政権「鎌倉幕府」誕生の地として、独自の文化を生み出してきた「武家の古都・鎌倉」に改めて光が当たろうとしています。

朝廷・貴族支配から武家支配へ移行していく日本史上の大転換点において、源頼朝を中心とする武家が政権を樹立した地、鎌倉。質実剛健を旨とする武家の精神性と、従来の貴族文化や中国の宋・元の文化が融合し、形成された武家文化は、現代に至るまで日本の社会に大きな影響を与え続けています。

担当 八木



建機ニュース